

## 令和7年度第3回山口警察署協議会会議録

開催日時	令和8年2月19日（木） 午後2時00分から午後3時30分までの間	
開催場所	山口警察署4階 講堂	
出席者	委員	磯村委員、春永委員、山本委員、藤井委員、真庭委員、板垣委員、金子委員、吉本委員、福田委員、岡委員、品川委員、竹松委員、野村委員、長村委員  計14名
	警察署	署長、副署長、主幹兼会計課長、警務課長、留置管理課長、生活安全課長、地域課長、刑事第一課長、刑事第二課長、交通課長、警備課長、警察安全相談課長  計12名
議題	1 所管業務の推進状況 2 大規模自然災害に備えた諸対策の推進について	
<p><b>1 会長挨拶</b></p> <p>令和7年度第3回山口警察署協議会を開催するにあたり、一言ご挨拶申し上げたい。先日は、今シーズン最大級と言われる猛烈な寒波に見舞われ、山口市内は山間部のみならず平地部でも積雪が見られたが、最近では寒さも少し和らぎ、春の訪れを感じさせてくれるような日が日増しに増えて来た。</p> <p>その一方で、県内ではインフルエンザが大流行している模様であり、体調管理には十分注意して頂きたい。</p> <p>管内の話をさせていただくと、1月10日の日中、徳地山畑の国道376号線上において、車両同士の正面衝突による交通死亡事故が発生した。</p> <p>その他については重要凶悪事件等の発生はなく、概ね平穏に推移していると伺っている。</p> <p>今回の諮問事項については、「大規模自然災害に備えた諸対策の推進について」であるが、災害への備えとは、個人や家庭で行う「自助」、地域や身近な人々で助け合う「共助」、国や自治体が行う「公助」の連携が重要であり、一人ひとりが日頃から災害に対する正しい知識と備えが求められると言われている。</p> <p>後程、担当者から説明があると思うが、本日協議する中で、我々で何か「後押し」できることはないか、探っていきたいと思う。</p> <p><b>2 署長挨拶</b> (省略)</p> <p><b>3 所管業務の推進状況（署長）</b> 各課の取組み及び令和7年中の統計数値などに基づき、現在の業務推進状況に</p>		

ついて、以下の項目に沿って説明を行った。

- (1) 採用募集活動
- (2) 刑法犯認知件数
- (3) 交通事故発生件数

#### 4 諮問事項説明（警備課長）

【大規模自然災害に備えた諸対策の推進について】

- (1) 近年の大規模自然災害
  - 能登半島地震（令和6年1月）
  - 山口県内（平成21年～平成30年）
  - 令和5年梅雨前線豪雨災害（令和5年6月～7月）
  - 令和7年8月9日からの大雨
  - 南海トラフ巨大地震について
- (2) 管内の特徴
  - 管内の冠水危険箇所
  - 過去の冠水箇所
- (3) 諸対策の推進状況
  - 県警察の主な対策
  - 災害対処能力の向上
  - 関係機関等との連携強化
  - 地域の防災意識高揚

#### 5 協議・検討

（委員）

今、スライドを見ていた際に山口県との県防災訓練という訓練があったが、山口市との市防災訓練というものは行われているのか。

（警備課長）

先程、少し説明したが山口市の危機防災管理課との連携を密にしており、具体的には、市主催の図上訓練に参加したりしているほか、榎野川における救出訓練を合同で実施したり、県主催の防災訓練に市と一緒に参加するなどしている。

（委員）

炊き出しを行うことによって地域の人にもボランティアに参加しやすいのではないかと話があるので、湯田温泉の料飲組合としても同じような取り組みをしてみたいので訓練等を行う際にはお声掛け頂きたい。

（警備課長）

自然災害が発生して長期化した場合は、避難所等において食料を調達することは非常に困難になることが予想される。組合側に協力して頂ければ非常に助かるので、山口市の方にもこのような申し出があることを説明したい。

（委員）

防犯意識高揚に向けた取り組みで、山口警察署では小学校、幼稚園において防災

教室をされているが、この防災教室の内容はどういったものか教えて欲しい。

**(警備課長)**

防災教室では、ぬいぐるみを使用し、実際に大規模地震が起きた際の身を守るポーズについて教養しているほか、先生等避難を誘導する大人の言うことをよく聞いて「慌てない」「先生から離れない」等、基本的な内容を教養している。

**(委員)**

私の息子は小学校2年生で帰宅後に学校で習ったことをよく教えてくれるが、先日はカーボンニュートラルについて勉強したことを教えてくれた。

その中で担当団体が教室に来て「家族と一緒に考えてみよう。」「家族と一緒に勉強しよう。」などと担当者が日頃から一緒に考えてみようというプリントを持ち帰って来て、息子を中心に家族内でその話題で盛り上がった。

授業での話を聞くと、子供達だけの対象かなと思ったが、やはり社会の最小単位は家庭であり、家庭内でも話をして欲しいという内容だった。

山口市は、これまで大地震の経験は多くないが、大雨洪水の発生が多くなっているので、災害時に親と離れ離れになった場合にどこに避難するのか、どういう行動をとるのかをよく話し合っておく必要がある。

防災教室では、家族の人数に応じて防災袋の食べ物が何食必要なのかなどと、大人と一緒に考えさせるなど子供に課題を与えさせる。課題を家に持ち帰らせて親御さんとも一緒に考えてみよう、宿題を与え家族で話し合うことで意識付けに繋がると思うので、警察の方もこのような親子参加型のやり方で防災教室をして頂けると防災意識がより身に着くのではないかと思う。

**(警備課長)**

委員の言われたとおり、確かに家族内で災害対策について話しておくことは大切である。避難場所の確認や防災リュックの準備等は大事なことなので、家庭で防災対策について話ができるような内容を教養に組み込んでいきたい。

**(委員)**

私は、今自分が住んでいる地域のハザードマップというのを知らない事に気付いた。何かの時にインターネットで調べてみたが、同じ様な状況で高齢者は直ぐに調べられないし、そう言った情報は年数が経過すれば変わって来ると思われるので、各地域や自治会などで、その地域ごとの狭い範囲のハザードマップや非難場所等の情報を定期的に回覧板で載せるようにすると親切だと思う。

自分から積極的に気にしていない人でも、回覧板であれば目を通しやすいのでより周知できるのではないかと思う。

**(警備課長)**

避難場所については、確かに広く周知すべきだと考える。

避難場所については、各自治体が開設することになっており、当署管内で言うと、100か所以上が避難場所として指定されている。主として地域交流センターが避難場所に設定されているが、これがしっかりと周知されるように山口市の方にも要請をしていきたい。

**(委員)**

これは行政の仕事かも知れないが、防災ガイドブックなどの資料の存在について、今以上に広く広報すべきであり、山口市は地震に関しては防災意識が低いと感じるところがある。

土地柄、南海トラフが発生したとしても山口市は内陸に入っている分、危険性は低いと無関心になるのは仕方ないことだと思う。

山口市は大きな地震や災害に対する地区別に防災訓練を行うとか、実際に地区別に訓練を行ってみるのが防災意識の高揚に繋がるのではないかと思う。

私の職場では、警察の協力により毎年、防犯訓練を行っているところであるがその方法として頭の中で考えるだけではなく、何某かの事件を想定して実際に身体を動かして実践してみることで、初期行動に影響が出てくるものだと思う。

東日本大震災の時も、避難訓練を繰り返し行っていた成果があり、これから先も自分の身は自分で守る「逃げるんだ」という意識を個人個人の心に擦り込んでいく、訓練を繰り返し継続していくことが大切だと思う。

**(警備課長)**

避難訓練等に関しては、市が自治会等と連携して実施しているところもあるので、警察としても連携できるところは連携し、地域の防災意識高揚に努めたい。

**(委員)**

豪雨災害に関して言えば、平成21年と平成25年の2回経験しているが、いずれの災害も徳地地区には大きな被害は無かった。

徳地は佐波川が流れてはいるが、大雨洪水や地震等の大規模自然災害に対してほとんどの者が無関心である。

私は徳地で自治区の会長と地域づくり協議会の会長をやっているので、防災意識の高揚を図る為、是非とも徳地で防災教室をやって頂きたいが、このような要望はどこに申し入れを行えば実現するのか教えて頂きたい。

**(警備課長)**

今後の講習会等に関する問い合わせについて、警察であれば警備課宛、山口市であれば、窓口は防災危機管理課になる。

山口市とも連携し、防災意識高揚に向けた取組みが実現できればと思う。

**(委員)**

確か7年くらい前に市内で長期間にわたり停電が続いたことがあった。この時可能な限り温泉だけは切らすことなく送り続けようと考え、6か所ある泉源のうち1番大きな泉源にV2エンジンを設置して送り続けた。

配湯所のタンクから各泉源に温泉を送っており、配給所に設置した自家発電装置を使用して各旅館に温泉を配湯することは可能であるが、各泉源のお湯を汲み上げるための電源をどうするかというところで問題が生じた。

丁度その頃、私が電気自動車に乗っていたことと各旅館にも電気自動車を所有している人が居たので、それなら電気自動車の電気で泉源を汲み上げてみようかということになった。

当時、このような話は全国の温泉地でも例がなく、どこの温泉地でもやっていなかった取組みであり、私共が全国で最初の取扱いだった。長期間にわたり停電が続いたとしても、温泉だけは送り続けようとした取組みであり、こんこんパークが完成したことで現在は2か所在る泉源でこんこんパークの自家発電装置で汲み上げることが可能となった。

メディア等を通じて災害の避難所で自衛隊がお風呂を設置しているのを見ると湯田温泉にはせっかく温泉があるのだから、とにかくお湯を送れるようにしようということである。幸いなことに今までこれを使ったことは一度もないが、1年に1回程度は試験的に動かして、有事の際にスムーズに対応できるように配給組合と一緒に取組んでいる。

### (委員)

今回は防災がテーマと言うことで、私の日頃から思っていることや警察にお願いしたいことなどについてお話ししたいと思います。

先程から県内で発生した過去の災害の紹介や最近では国内外を問わず大きな自然災害が発生していることを耳にするが、警察の方が幼稚園や小学校などの学校施設に赴いては防災教室を頻繁に行われている事を知った。

子供達に対する防災意識は定着しつつあり、防災意識の高揚にも繋がっていると感じるが、それに比べると障害者施設や高齢者施設については、施設内にヘルメットや懐中電灯等の設置をしているものの、そこまで意識付けが浸透しているとは思えないのが実情である。

このように考えるようになった理由は、平成21年7月、当時防府市真尾に在った特別養護老人ホーム「ライフケア高砂」で12名の尊い命が奪われた災害を思い出したからである。この大雨土砂災害については皆さんも覚えていると思うが、この災害では、職員さんの中には濁流の中、素潜りで利用者さんを救助されたと言う苦労話も聞いたことがある。

それから3月11日が近付くと2011年3月11日に発生した東日本大震災が思い出されるが、予期せぬ大地震と大津波でその状況が連日テレビ等で放映され、その状況を知ることができた。

つい最近、ある人から「釜石の奇跡」という言葉をご存知かと問われ、この言葉を忘れ掛けていたのでインターネットで調べてみたところ、東日本大震災が発生し、大津波が釜石市内を襲った際に1,300人もの犠牲者が出たことを再認識した。この時、鶴住居地区の同小学校と釜石東中学校では、震災発生直後に教職員は学校の屋上方向に避難誘導し3階に集まりかけた頃、窓から中学生が一斉に校庭に駆け出す姿を見掛け、この時児童達は、平素から繰返し行っていた中学生との合同避難訓練を思い出し、子供達自らの判断で校庭に駆け出し、学校近くの山の高台に在る高齢者施設まで避難し、570人全員が無事避難することができたという話である。やはり日頃から訓練し周知していたからこそ、児童達自らの判断で動いた結果、功を奏した好事例であると思う。

防災関係の取組みについては、主導が警察なのか消防なのか、我々にはよく解らないが、いずれにしても連携をして頂き、有事の備えの大切さについて、過去の事例等を紹介しながら、管理者や職員に対する講習等を是非とも行って欲しいと思う。

**(警備課長)**

避難の際に支援を要する方やその支援をする方に対する防災意識高揚の取組みは、非常に大切だと考える。市や自治会等とも連携して対応していきたい。

**(委員)**

社会福祉協議会では、学校施設、高齢者施設、障害者施設を管轄しているが、ここに「地域公益活動推進協議会」という組織があり、各部門の代表と各役員に集まっていただき、委員会や協議会を行う機会があるので、その様な会議の際に警察から声を掛けて頂けると有難い。

**(警備課長)**

地域公益活動推進協議会における防災講習については、市とも連携して対応させて頂きたい。具体的な話については、また個別に相談をお願いする。

**(委員)**

採用募集活動の件で質問させて頂きたい。プロジェクトチームの構成と任期についてお尋ねしたいのと、Y Pセミナーはどれくらいの頻度で行われているのかそれと実際に参加された方の感想や意見等について紹介して頂きたい。

**(署長)**

まず、プロジェクトチームについては、やはり受験対象者と年齢に近い者を選抜して充てている。但し、これには向き不向きというがあるので、やはり実際に受験対象者等と接してみて、例えば、大学時代に何某かのスポーツを専攻していた者と言うのは、やはり先輩・後輩の関係というのは強みであり、効果的である。大学にOBやOGが赴き「警察官の採用試験を受けてみないか」と言うと、結構な割合で受験して来るものである。人には向き不向きがあるので、それを選別した上でプロジェクトチームのメンバーとして指名している。

若い警察官だけでやると、その後のフォロー等、通常の仕事もあり仕事に穴を空けてはならないので、両立可能な人物を指名している。

任期については、年度ごとと言うくくりでやっており、我々も異動があるので継続的にやらせる訳ではなく、1年間の年度区切りで行っているところである。

Y Pセミナーについては、これから3月に入ると採用募集活動が解禁になるので、それに合わせて丁度今、3月14日に当署独自の取組みであるY Pセミナーの準備をやっているところである。各警察署では不定期に色々な形でこのようなセミナー的なイベントを計画開催し、採用募集に向けた活動を展開し、色々と広報しつつ行っているところである。

また、開催方法としては各警察署単位でやる場合と県警全体でやっている事もあり、警察学校への一日体験の様な形で、警察学校がどんな所なのかなど、実際に訓練等の一部を体験してもらう催しを行っているところである。

やはり出席者は興味を持っている方が多いので、この様な施設があるのだとかこのような考え方があるのだ、警察官は堅苦しいイメージが強かったが、実際にセミナー等に来てみると仕事の内容等について直接、若手警察官とのフリートークをしてみることでイメージと全く違っており、納得して帰られる方もいるし、勤務的に苦しいと感じて帰る方も中には当然いる。

そう言ったマイナスイメージを持った方々については、なかなかその場で払拭して解決することは難しいが、我々も経験等を踏まえて、そうではないのだと説明しクリアできるように助言しているところである。

**(委員)**

少子化の時代に採用募集について大変ご苦労されているなど思っているが、Y Pセミナーは大変良い取組みだと思うので、是非とも充実させたものにして頂きたい。

もう一点質問であるが、災害のことについて、避難場所のパトロールをされているということで、避難所に避難している方々にとっては非常に警察官の方々によるパトロールは心強く感じるところである。

そんな中で、私は男女共同参画ネットワークで活動している関係で、特に性暴力が発生したことがあるという話を聞いたことがあるので、避難所の運営も上手くいっている所とそうではない所があるので、きめ細かく目を光らせて頂けると大変住民としては有難いと思う。

**(委員)**

所管業務説明の中で特殊詐欺の被害者の説明のところ、興味深く聞かせてもらった。年齢が20～30歳代が結構多いということで、お年寄りの被害以外にどういった内容のうそ電話が多いのか教えて頂きたい。

**(署長)**

昔は、オレオレと言えば「母ちゃん、オレオレ」などだったが、最近では投資話を持ち掛けるパターンが非常に多く、楽をして金を儲けようというやり方である。その中心はSNSを使用して上手に恋愛感情をかき立てながら、自分の方に引張り込み、最終的に投資話を持ち掛けたりしたという話にもなるし、仲良くなり友達関係を作ってから投資話を持ち掛けるという話が多い。

その辺りでじっくりと時間を掛けて騙して行き、信頼関係を作った上で騙されるというところから、この様な若い人達が騙されるという被害に遭う確率が高くなっていると思われる。

**(委員)**

大学の方では、最近、留学生対象の事件や事故が多くなっているなど感じるが特に外国人対象の事件の増減など、最近の情勢について教えて欲しい。

**(署長)**

具体的な数字については承知していないが、肌感覚では、当署においての取扱いはあまりないものと記憶している。

**(委員)**

採用募集の関係で、先程、セミナーの出席者数について説明があったが、セミナー出席者からの志望者の人数、実際に申込んだ者の人数、大体どのくらいの割合になっているのか教えて欲しい。

**(警務課長)**

セミナーに参加してくれる人はほとんどが採用試験を受験しており、なかでもその年の受験適齢年齢の人はそのまま受験しているのが実情である。

**(委員)**

警察の方がY Pセミナーをされていることについて、結構、オープンな内容になっていると思われるが、警察官の面白いところや反対に警察学校の厳しさなどマイナス面も出てくると思う。こうしたセミナーに来るということは、大半の人は既に警察官を志望していると思うが、警察側の人だけが勧めるのではなく、地元地域の大人達等、警察官や先生でもない人達から、声を掛けて頂くと効果があるのでないかと思う。

この様な方法でアプローチするということは、我々協議会委員の出番だと思うので、是非とも我々協議会委員を使ってもらえたらと思う。

**(署長)**

非常に良い意見である。よろしければ、協議会委員の方にもリクルーターになって頂ければと思う。

私達警察だけでなく、第三者の方々から後押しして頂けるのであれば、また違ってくるのではないかと思う。是非とも前向きに検討して行きたいと思う。

**(委員)**

本日の総括について、皆さんの意見を聞いていると採用募集についても大規模自然災害についても、やはりとにかく連携が必要だということを感じた。

子供から家庭へなど、常に連携し、皆さんもそれぞれの立場で、警察署の為に頑張る協力して行きたいと思う。

**6 その他警察業務全般に対する意見・要望等**  
なし

**7 第2回警察署協議会時の質疑に対する説明**

**(1) JR湯田温泉駅から井上公園に至る道路に外側線がなく危険である。**

道路管理者である県土木に外側線の塗り替えを依頼した。県土木からは、「来年度の塗り直しを進めていきたい。」との回答を得ている。

なお、これまでの経緯等を県土木に確認したところ、

○ 同道路については、以前は山口市が管理

○ 都市整備計画の一環として、平成13年の山口きらら博の開催に併せて、現在の舗装にした記録がある。

とのことであった。

**(2) 山口市内から阿東方面に至る国道9号では、中央線が何箇所も消えているので早期に引き直して頂きたい。**

道路管理者と連携し、塗り替えを進めている。

警察が管理する黄色の実線部分については、篠目駅入口から長門峡の道の駅付近までの区間など、約10kmに渡る区間の塗り直しを上申している。

道路管理者が管理する白色の実線や点線についても、道路管理者が塗り直しを進めている。

なお、仁保から徳地に通じる国道376号でも、道路管理者が塗り直しを進めており、本年度、井開田交差点から荷下峠にかけて約8割以上の塗り直しが終了している。

**(3) JR山口駅南側の川沿いの市道で移動オービスによる速度取締りを実施してもらいたい。**

移動オービスは、県内2台のみの配置であり、常時使用することはできないが警察本部と調整を図りながら、通学路を中心に、速度が速い道路、住民から要望がある道路で実施している。

今年度の実績は、黒川地区、大内地区及び阿東地区などで実施しており、要望のあった、山口駅南側の川沿いの市道については令和5年度及び6年度も実施している。

**(4) 信号機のない横断歩道の安全利用に向けたドライバー対策を強化してほしい。**

信号機のない横断歩道における一時停止率向上に向けて、横断歩道の手前に表示されるひし形（ダイヤモンド）の意味と横断歩道接近時の義務について、各種講習会で必ず指導しているほか、高齢ドライバーが免許更新時に義務付けられている高齢者講習においても特に力を入れて指導するように、講習を担当している自動車学校にも依頼している。

また、取締りの関係では、昨年1年間で、歩行者妨害違反を470件検挙し、これは前年に比べて264件増加している。これだけ違反者が多いということであるが、課題の一つとして、取締り場所の固定化があげられる。取締りの必要性が高いのに、パトカーを止める場所がないことなどを理由に、警察の取締りが行き届いていない横断歩道もまだ多くある。土地の管理者に協力を求めるなど、今まで実施できていなかった場所での取締りについても可能な限り実施し、横断歩行者妨害の違反、ひいては重大事故の発生を無くしていきたいと考えている。

**(5) 自転車のヘルメット着用等に関して、実効性のある施策、広報が必要である。**

3月の「高齢者の交通事故防止県民運動」や4月の「春の全国交通安全運動」といった機会を最大限活用したイベントを計画している。

今、具体的に進めているイベントは、3月にレノファ山口の関係者や大学生にも参加していただき、自転車の安全利用を呼び掛けるイベントを計画している。